

# ガザのジェノサイド - 誰がそれを呼んだか

「不正義の状況で中立であるなら、あなたは抑圧者の側を選んだことになりま  
す。象がネズミの尾を踏んでいて、あなたが中立だと言うなら、ネズミはあなた  
のその中立さを評価しないでしょ。」

— デズモンド・ツツ

## 序論

イスラエルのガザでの行動をジェノサイドと名付けることは、扇動的なレトリックではありません。それは圧倒的な証拠に対する国際法の正確な適用です。1948年のジェノサイド条約によれば、ジェノサイドの認識は任意ではなく、国家に対して防止と処罰の義務を課します。今日のガザを見て、なおジェノサイドと呼ぶことを拒否することは、抑圧者の側に立つことです。

メディアからのリークされた指示や、国連のような機関からの慎重な表現は、「ジェノサイド」という言葉を意図的に避けていることを示しています。しかし、言葉は重要です。ジェノサイドは国際法上の犯罪であり、比喩ではありません。基準が満たされているのにそれを否定することは、ジェノサイドを助長することです。ツツが警告したように、重大な不正義の前での中立は共犯です。

このエッセイは、国家、組織、専門家、裁判所からの宣言、法的判断、警告を記録し、ガザの苦しみをその本質的な名で呼ぶことで沈黙の共謀を打ち破ったものを紹介します。

## ジェノサイドの明確な宣言

- **欧州憲法・人権センター (ECCHR、ベルリン)** — 2024年12月10日：イスラエルがガザでジェノサイドを犯していると結論づけた。
- **アムネスティ・インターナショナル・ドイツ** — 2025年7月29日：イスラエルの意図的な飢餓政策がジェノサイドに該当すると宣言。
- **メディコ・インターナショナル** — 2025年7月29日：イスラエルのガザの体系的破壊をジェノサイドとして非難。
- **トルコ** — エルドアン大統領：国際司法裁判所 (ICJ) にイスラエルのジェノサイドを証明する文書を提供。
- **南アフリカ** — 2024年1月：ICJに対しイスラエルをジェノサイドで訴えた。
- **イスラム協力機構 (OIC)** — 2023年12月：イスラエルの戦争を「集団ジェノサイド」と宣言し、南アフリカの訴訟を支持。
- **サウジアラビア** — ムハンマド・ビン・サルマン皇太子、2024年11月：イスラエルのキャンペーンを「集団ジェノサイド」と呼んだ。

- **マレーシア、インドネシア、パキスタン** — ICJの公聴会でジェノサイドの枠組みを明確に支持。
- **国連イスラエル行為特別委員会** — 2024年11月：イスラエルの行動が「ジェノサイドの特徴と一致する」と判断。

## 法的判断

- **国際司法裁判所 (ICJ)、南アフリカ対イスラエル (2024)** — ガザに「ジェノサイドの可能性のあるリスク」があると判断し、イスラエルに対しジェノサイド行為の防止と人道支援の許可を命じる暫定措置を発行。
- **ICJ、ボスニア対セルビア (2007)** — 重大なジェノサイドのリスクを認識した国家は、合理的に利用可能なすべての手段を用いて行動する義務があると確立。
- **学術的・専門家コンセンサス (2023-2025)**：
  - ラズ・セガル (ジェノサイド学者)：イスラエルの攻撃を「教科書的なジェノサイドのケース」と呼んだ。
  - ウィリアム・シャバス (元国連ガザ調査委員会議長)：ジェノサイドの要素が存在すると確認。
  - フランチェスカ・アルバネーゼ、バラクシュナン・ラジャゴパル、クリス・シドティ、および800人以上の学者が、ガザにジェノサイドの枠組みを適用する公開書簡に署名または声明を発表。

## メディアおよび機関による「ジェノサイド」の回避

- **ニューヨーク・タイムズ**：2024年にリークされた編集メモは、記者に対し「ジェノサイド」「民族浄化」「パレスチナ」などの用語を避けるよう指示。無難な「戦争」の枠組みを優先し、感情的な用語はイスラエルの犠牲者に限定。
- **西側メディア**：主要メディアは、大量の民間人死亡にもかかわらず、パレスチナ人に対して「虐殺」や「大虐殺」などの用語をほとんど使用しなかった。
- **国連**：
  - 上級職員 (例：トム・フレッチャー、マーティン・グリフィス) は2025年にジェノサイドが進行中と警告。
  - しかし、国連は機関として、正式なジェノサイドの判断は裁判所のみが行えると主張し、しばしば政治的中立を正当化するためにこの法的立場を使用。
  - **明確化**：国連機関や加盟国がジェノサイドの特徴が存在する場合にそれを認めることを妨げる法的障壁はない。裁判所による法的判断は、道徳的または政治的認識の前提条件ではない。

この回避 — メディアと国際機関の両方での — は、このエッセイの中心的主張を例証します：中立は共犯であり、沈黙は否定です。

## 国家の行動義務

1948年のジェノサイド条約および2007年のICJのボスニア判決は明確です：国家がジェノサイドの重大なリスクを認識した場合、それを防ぐために行動する法的義務があります。この義務は象徴的またはレトリックではなく、具体的な措置を要求します。

国家は、加害者に影響を与え、ジェノサイドを停止させるために合理的に利用可能な**すべての**手段を展開する必要があります。これには以下が含まれます： - 大使の召喚または追放 - 武器移転の停止 - 経済的および外交的制裁の実施 - 国際逮捕状の追求 - 必要に応じて、国連憲章第7章に基づく集団的軍事介入の検討

この義務は**行為と結果**の両方に及びます：ジェスチャーだけでは不十分です。無行動は共犯です。

マリオ・サビオが1964年に宣言したように：

「機械の動作があまりにも嫌悪感を覚え、心を病ませる時が来ます。その時、あなたは参加できません。受動的に参加することもできません。そして、ギアや車輪、レバー、すべての装置にあなたの体を投げ込み、それを止めなければなりません。そして、それを運営する人々、所有する人々に、自由でなければ機械が全く機能しないようにすると示さなければなりません。」

ガザではジェノサイドの機械が動き続けています。目を背ける国家、あるいは加害者を武装させる国家は、その車輪に油を注いでいます。

## 結論

国際司法裁判所は、気候に関する高尚な判決で地球を救うことについて大胆に語りますが、テレビで放送される現行のジェノサイドの前ではためらいます。ガザは砕かれた命の墓地と化し、介入する力を持つ国家 — ジェノサイド条約に署名した国家 — は政治によって麻痺するか、支援によって共犯となっています。

これが、虐殺を武装させ、真実を沈黙させ、ガザが燃える中加害者を守った者たちの罪です。

想像してください — あなたの民が絶え間ない爆撃の下でテントに押し込められ、飢え、薬を拒否され、子どもたちが次々と死んでいくのを見ながら、世界で最も強力な国家が虐殺を武装し、「中立」を語るのです。

中立は中立ではありません。それは抑圧者の側に立つことです。

この偽善は非難されるべきものです。歴史は、このジェノサイドの加害者だけでなく、共犯者も記憶するでしょう。

## 参考文献

1. ICJ暫定措置 – 国際司法裁判所、「ガザ地区におけるジェノサイドの防止および処罰に関する条約の適用（南アフリカ対イスラエル）、2024年1月26日の命令。」

2. **ボスニア対セルビア – ICJ判決**、「ジェノサイドの防止および処罰に関する条約の適用に関する事件（ボスニア・ヘルツェゴビナ対セルビア・モンテネグロ）、2007年2月26日の判決。」
3. **ラズ・セガル – Jewish Currents**、「教科書的なジェノサイドのケース」、2023年10月。
4. **ウィリアム・シャバス** – 各種公開インタビューおよびパネル発言（2024-2025）。
5. **フランチェスカ・アルバネーゼ他** – 国連専門家から加盟国への共同書簡、2024年。
6. **ニューヨーク・タイムズ・メモ** – リークされた編集ガイダンス、2024年4月（**The Intercept**経由）。
7. **OIC声明** – 「ガザに関するOIC特別イスラムサミット宣言」、2023年12月。
8. **ECCHR声明** – ECCHRプレスリリース、2024年12月。
9. **アムネスティ・インターナショナル・ドイツ** – 飢餓をジェノサイドとする声明、2025年7月29日。
10. **メディコ・インターナショナル** – ガザ破壊に関する声明、2025年7月29日。
11. **国連特別委員会報告書** – 年次報告書、2024年11月。
12. **グローバル・サウスの国家による声明** – ICJ口頭審理、2024-2025。